感染研市民セミナー（第37回）

「くらしに役立つ病気の知識」

世界におけるジカウイルス感染症の流行状況とその対策の重要性

国立感染症研究所（村山庁舎）では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「くらしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

ジカウイルスは、1947年にウガンダのジカ森林公園のサル（黄熱に関する研究のためのおとりサル）から初めて分離されたウイルスです。ジカウイルスはフラビウイルス科フラビウイルス属に分類され、蚊と人の間でウイルスは維持されています。

ジカウイルス感染症は、アフリカおよびアジアの熱帯・亜熱帯地域において流行していましたが、2015年に中南米で流行しはじめました。妊婦がジカウイルスに感染すると、赤ちゃんが感染してしまう（先天性ジカウイルス感染症）ことも明らかになってきました。

本講演では、海外での流行状況と今後の課題、日本におけるジカウイルス感染症への対策についてお話をいたします。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師：西條　政幸（ウイルス第一部長）

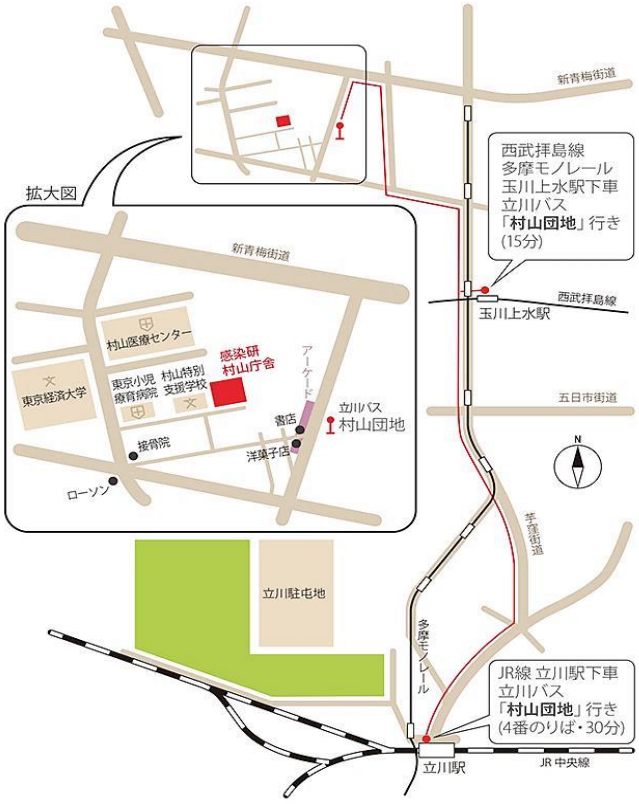
（質問コーナーもあります。）

日時：平成28年6月4日（土）

10:00～11:15（受付は9時半より）

場所：国立感染症研究所村山庁舎

参加費：無料　（申し込み不要）



お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315